

危険な 原子炉緊急停止、 出力再上昇テスト

原子力空母では、原発では行われない原子炉の緊急停止や、直後の再起動、急速な出力上昇等の危険なテストや、放射性液体、気体の放出を日本近海で行っていることが、入手した「航海日誌」で明らかになりました。

25年分の 死の灰

原発の燃料交換は1年に1回。溜まる死の灰は最大1年分です。原子力空母の燃料交換は25年に1回。溜まる死の灰は最大25年分です。

高濃度の 燃料棒

原子力発電所の核燃料のウラン235の濃縮度は3〜5%。これに対して、原子力空母の核燃料ウラン235の濃縮度は約95%で、原爆並の高さです。

3.11 原子力空母は

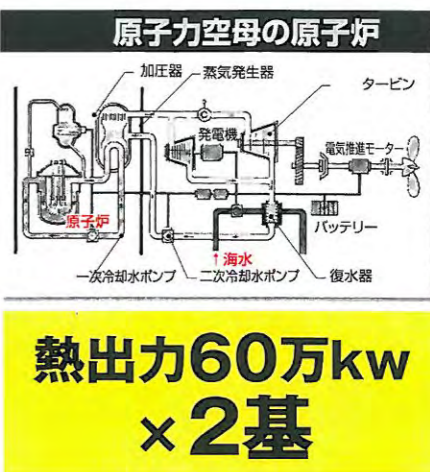
東日本大地震当日、原子力空母ジョージ・ワシントンが横須賀基地に停泊していました。星条旗新聞は「水位は6フィート(183cm)下がり、揺れは非常に強くて船を埠頭岸壁から離すほどだった」と乗組員の証言を伝えています。大規模地震が基地を直撃すれば、原子力空母の原子炉も決して安全ではありません。

これからも 原子力空母と いっしょに 暮らしますか

**爆弾や
ジェット燃料も**
原発周辺には、爆発物貯蔵庫や燃料タンクを作ることはいけません。しかし原子力空母は、艦内の至近距離に、大量の爆弾やジェット燃料を積んでいます。

安全審査 なしで配備

原発は日本政府の厳しい安全審査を受けています。それでも事故は起きました。原子力空母は、その安全審査すら受けていない、まったくのノーチェック状態です。



**原発の原子炉と
米海軍の原子炉は兄弟**
原子力空母は2基の原子炉を積んでいます。原子炉に核燃料を装填し、核分裂反応による熱で作った水蒸気でタービンを回して航行します。原子力発電用の加圧水型軽水炉(福島第一原発は沸騰水型は、海軍の原子炉が原型です。両者の原理は同じもの。つまり、原子力発電の原子炉と海軍原子炉は「兄弟」の関係です。

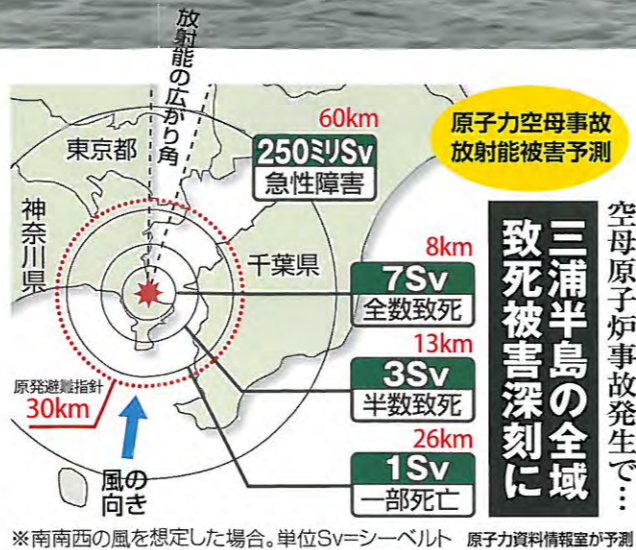
原子力空母が
地震・津波に襲われたら

大規模地震で想定される事故

- 津波で乗り上げ、海水の取水不能
- 冷却施設の電源喪失
- 艦内の非常用施設の機能喪失

水素爆発、メルトダウン・水蒸気爆発による格納容器等の破壊
艦外への放射性物質の放出

横須賀港内で原子炉が稼働しないし停止後の想定です。原子炉停止後も、崩壊熱の冷却が必要です。



住民の安全は二の次に。 変わらない原子力空母の 事故対策範囲。

| | 放射線量 | 避難区域 | 重点地域 |
|-----------------|-------------|-------|--------------|
| 原発災害指針 (2013年) | 毎時5マイクロシールド | 5キロ圏内 | 30キロ周辺 |
| 内閣府検証結果 (2016年) | 毎時5マイクロシールド | 1キロ以内 | 3キロ圏内 (屋内退避) |

福島原発事故を受けて政府は、原発については、5キロ以内を事前避難区域、30キロ以内を防災重点区域に拡大しました。ところが原子力空母では、2004年に作られた防災マニュアルで1キロ以内避難3キロ以内で屋内退避、それ以後は殆ど対策なしとされ、2016年のマニュアル検証作業でもその範囲はそのままとなっていました。皆さんは、原発とあまりにかけ離れた、「原子力空母の事故対策は3キロ以内で十分である」という政府の見解を、信じられますか？